第１７号

定価一年間３００円
組合員の購読料は
組合費に含む

ひやま

発行　檜山教職員組合

〒 043-0056　江差町字陣屋町 86-1
℡ 0139(52)0858　　FAX (52)1490
発行責任者　　高　橋　正　人
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp

徐々に自死への階段を上っていったA（中学2年生）は、室内の自分の机の上に手帳と小学校時代の写真を置き、いよいよいじめをされ続けている当該クラスに行かなくてはならない時間となったため、これ以上生きていることはできないと考えた。そして、10月11日午前8時過ぎ頃に自宅マンション14階から投身自死（自殺）した。14階から飛び降りれば生命を絶つことはわかっていたはずである。Aはこの階から飛び降りることにより、「暗いいじめのトンネル」を抜けようとしたのである。
大津市立中学校におけるいじめに関する第三者調査委員会「調査報告書」より

「いじめ問題」に向き合い、「命」を大切にする「学校」へ

～大津市立中学校におけるいじめに関する第三者調査委員会「調査報告書」をうけて～

二〇一三年一月三一日、大津市立中学校におけるいじめに関する第三者調査委員会は、「調査報告書」を作成し、大津市に対して提出しました。この目的は、「個別の関係者の責任追及を目的とするのではなく、事実の究明に徹底し、いじめの認定および自死の考察をするとともに、そこから問題点を抽出し、そして、問題点を克服するための再発防止策を提言することにある」と記しています。

第三者調査委員会より越直美・大津市長に「調査報告書」が提出された

子どもたちの成長発達を願い、「命」を預かる私たち教職員にとって、大津の中学生が自死に至るまでの経緯とその問題点に向き合い、再発防止に最善を尽くすことは、使命と言っても過言ではありません。ここでは、「調査報告書」に問題点として書かれていることをとりあげ、「学校づくり」について考えます。

＊　＊　＊

「いじめのない学校づくり」を宣言し、教員もがんばっている学校がなぜ…

「本件中学校の教員が言葉に言い表せないほどの努力をされてきたことを知った。」この言葉は、提言の冒頭に記されています。また、この学校は平成二一年・二二年度文部科学省指定の「道徳教育実践研究事業」推進指定校として、①いじめのない学校づくり、②ゴミのない学校づくり、③あいさつあふれる学校づくりを宣言しています。しかし、いじめが直接的要因と結論づけています。A君の性格等や家庭の問題は自死の要因とは認めていません。教員がこれだけ努力し、且つ道徳推進校で、なぜ、いじめが原因で尊い命が失われることになったのでしょうか。

「いくら個別の教員が奮闘しても…」

「個別の教員のいじめに対する対応の仕方の問題点の背景には、いじめに対する効果的な対処の障壁となる多くの重大な問題点があることが判った。いくら個別の教員が奮闘してもその力を十分に発揮することを妨害する問題点が多数ある」と述べています。そして、これら複数の問題点が、学校現場において絡み合って作用した結果、いじめの発見を見逃し、あるいは遅らせ、自死を防ぐことができなかったとまとめています。それでは、その多くの問題点とは、どのようなことなのでしょうか。

複数の問題点とは…

①教員によるいじめ認知の遅れ　②実現しなかった教員間における情報の共有化　③情報の共有化の基礎としてのチームワークの不足（教員間の風通しの悪さ）④生かせなかった副担任制度　⑤学級運営上の問題点　⑥いじめ対応と学校・教員の評価　⑦いじめ防止教育（道徳教育）の限界　⑧校長等管理職の役割　⑨大規模校が孕む問題点　⑩実現しなかった教員と保護者との情報共有　⑪教員の多忙　⑫講師身分の固定化など、一二点に渡る問題点の指摘があります。そして、ここでは紹介できませんが、それぞれ事実に基づいた深い考察があり、現場に携わる者として身につまされるものとなっています。かといって、それを一挙に克服することは至難の業です。しかし、このことを認識することは、「学校づくり」を考える上で重要です。その中でも、とりわけ「情報の共有化」は、早急に取り組むべき課題です。

「情報の共有化」にまず必要なこととは…

「教員間の協力協働の基礎には、教員間の風通しの良さが不可欠である。職員室で互いに冗談を言い合い、時に、教員とし

（裏面に続く）

（表面からの続き）

ての悩みを打ち明け合って助言や励ましを得ること、悩ましい生徒に関する情報交換を行うなどは、教員としてのモチベーションを維持するために不可欠であるだけではなく、個別の教員による課題の抱え込みを緩和し、特定の子どもに関する課題が教員集団の共通認識になるメリットもある。

本件では、Aにかかわる重要な情報の多くが担任の所に留まり、他の教員に十分に伝わらなかったが、仮に、教員間の風通しが良く、悩みや個人的に抱える懸念事項を他の教員に漏らすことに何の抵抗も無いという雰囲気ができていたとすれば、担任の重要な情報はより多くの教員に伝わり、本件のいじめについて、複数の目による注視が実現できたのではないかと考える。情報共有の基盤には、教員間の人間的な信頼関係が不可欠である。」

ここに書かれているように「情報の共有化」の基礎は「教職員間の風通しの良さ」と「人間的な信頼関係」にあります。現場として実感できることは言うまでもありません。

人間的な信頼関係を構築するためには…

「炉辺談話がなくなってきたなぁ・・・。」職員室にストーブがある時代を過ごした教師が嘆くように言っていました。「学校づくり」には、一見なんの関係もないような無駄で効率からかけ離れたようなことですが、「なんかうまく言えないんだけどもさ、今、こういうことが大切なような気がするんだよなぁ・・・」とベテラン教師が語る言葉と「調査報告書」が重なります。

また、それだけでなく、檜山の先達は、行政や管理職、そして、教職員も一緒になって考え、「校長は学校運営の最高責任者として、その豊かな経験と識見に基づき、教職員の自発性と創造性を啓発する」として、集団においてリーダーの存在の意義を説き、上意下達よりも、理解と納得を尊重する民主的なリーダーの存在が不可欠であると知恵を遺してくれています。また、職員会議においても、伝達の場だけでなく、「ひとりひとりの教職員が英知を出し合う協力共同の関係でもたらされ、且つ高めることができる学校運営上重要な役割を持つ」と述べています。「自由に話せない」「何言っても同じだから意見を言わない」という場になっては、「情報の共有」などほど遠い存在になってしまいます。

年度始めに、風通しのいい「学校づくり」論議を！

「炉辺談話みたいなことが大切だと言っても、そういう余裕がないよ」と多くの教職員がそこの困難さを指摘しています。この問題は、教職員の多忙化と切り離すことはできず、前出の通り複雑に絡み合っていることももちろん見逃せません。しかし、できる範囲で「風通しのいい職場作り」そして本当の意味での「情報の共有化」をどうするかということは、管理職も含めて、話し合うことが重要です。子どもたちのためにも「困ったこと言っても安心感がある」「自由に話しても大丈夫！」といった安心と自由がある「学校づくり」の論議が年度始めにできることがのぞまれます。

道教組第26回定期大会から

誰のための学校なのか…

今の「学校」に心のどこかで違和感があるんです。

全北海道教職員組合（道教組）の第二六回定期大会が三月一六日・一七日の両日、札幌市教育文化会館で開催されました。檜山教職員組合から4名の代議員が出席しました。

冒頭あいさつに立った西野誠執行委員長は、いじめ、体罰の問題などに言及しながら、「参加と共同の学校づくり」と強調しました。

新保裕書記長が経過報告と運動方針提案を行いました。「いじめ・体罰について職場の全教職員で論議を進め、保護者とも率直に話し合う」「職場要求書で学校長とも学校づくりの対話を進める」「仲間を支え合う組合づくりを行う」「憲法改悪の策動に反対し、憲法を守り生かす運動を地域に広げる」ことを柱とした方針案を全会一致で承認しました。

大会では三二名の代議員が討論、檜山教組からも発言しました。また、市来成子代議員（上ノ国支部）が選挙管理委員を務めました。

「一人ひとりの先生は頑張っているのだけど、力を合わせないと学校はうまくいかない」「チャレンジテストの名前さえ、乱雑になってくる、間違い直しをしてこないなど、ちゃんとやろうと声をかけるが、やってこない。子どもたちの一つのメッセージなのでは」「職場では、今の教育政策に、心のどこかで違和感を持ち、『真の学力』って何だろうと立場を越えて論議になってきている」などといった発言が各地の代議員からありました。

討論に立つ大口代議員

檜山教組・大口加代子代議員（せたな支部狩場支会）は、檜山の年次大会と同様に、本音で語り合う場を作りながら保護者のくらしや思いを知ることが大切。そこから子どもを丸ごと捉えることで、初めて学校と保護者・地域が同じ土俵で地域の発展と教育・子育てについて話し合えるのではないかと訴えました。

討論に立つ石橋代議員

同・石橋英敏代議員（江差支部）は、学校現場に余裕がなく、誰にも相談できず、精神的に追い込まれ、孤立化していく教職員の現状を憂慮し、孤立化しないための手立てや工夫の必要性と組合の意義を明らかにしました。

同・越前秀一代議員（江差支部）は、檜山全体の若い教職員の少なさを具体的に示し、その立場に心を寄せながら、若い教職員が同じ年代でつながっていくことの困難さを明らかにしました。そして、その中で生きている若い教職員に組合の意義や大切さ、具体的な活動などを丁寧に説明するとともに、若い人がつながることの大切さだけでなく、組合員自身が授業作りや教育実践を見せ、若い人が入ってみようかなと思うようなことをして行かなくてはならないと訴えました。

討論に立つ越前代議員

大会では「子ども・青年の人間関係に起きている『いじめ』の問題」「高校の部活動での『体罰指導』と自殺事件から表面化した体罰の問題」「『全国一斉学力テスト』が持ち込んだ『競争と管理』教育が、子ども・青年の自己肯定感と生きる意欲を奪っていく問題」「地域経済の空洞化がもたらす、子ども・青年が描く未来設計の難しさの問題」の根源と課題の困難性は「新自由主義改革」によることを明らかにし、主権者たる子ども・青年の「声」を受け止め、「学校づくり」に取り組むことの特別決議を確認し、閉会しました。

なお、本大会で新たに中山晴生檜山教組書記長が道教組書記次長に選出されました。